
蛇蝎院もも子のファッション110番

神冥璽和魂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蛇蝎院もも子のファッション110番

【コード】

N9968H

【作者名】

神冥璽和魂

【あらすじ】

大衆は口々に叫んだ……………パワーつけるよ、チャット小説。

サイバーポリス邪教院たか子は、秘密結社エロエロオノコ突撃隊が放った刺客の攻撃により窮地に立たされていた。

時は流れ、再び勃発した政権交代劇によって女帝邪教院たか子は失脚し、江戸所払いの刑を言い渡されたのだった。

そしてその後釜には宿敵蛇蝎院もも子が居座り、二代目サイバーポリス女王として君臨していたのであった。

20xx年 某月某日.....

「あつ、もしもし、山本さんのお宅ですか。春樹さんいらっしやいますでしょうか。あら、春樹君ですのね、わたくし、ダイヤル110の蛇蝎院もも子と申します。今日お電話差し上げたのは他でも御座いませんのよ。春樹君は勉学優秀でその上スポーツマン、そして何より抜群のスタイルと気品のあるハンサムなお顔立ち。その噂は日本全国津々浦々まで響き渡っているのはご存知ですわね。そこでお話があるのですが、実は春樹君の才能とカツコ良さを妬む不逞の輩が、春樹君のお命を狙っているとの情報をわたくしは掴んだのですわ。市民の生命の安全を護る事がわたくしたちに課せられた使命

なのですわ。お電話ではお話しできない内容も御座いますので、一度お会いしてご相談しようと考えておりますのよ。次の日曜日午前11時にホテルニューニッポンの一階にあるカフェバーでお待ちしてますので、いらして頂きたいんですけど。」

『あのう、すみません。日曜日は友達と約束がしてあって無理なんですけど。電話では駄目なんですか。』

「駄目ですよ。これは貴男の命に係わることなんですのよ。絶対に日曜日午前11時にホテルニューニッポンへいらして下さいな。」

『すみません、無理なものは無理ですので……じゃ、切りますから。』

「ガチャツ……とな……フツツツ、お前程度のオノコなど世の中には掃いて捨てる程いるんですよ。さてと次のオノコはと……あ、もしもし、池谷哲人君ですか、わたくし、ダイヤル110の蛇蝎院もも子と申します。今日お電話差し上げたのは他でも御座いませんのよ。哲人君は勉学優秀でその上スポーツマン、そして何より抜群のスタイルと気品のあるハンサムなお顔立ち。その噂は日本全国津々浦々まで響き渡っているのはご存知ですわね。そこでお話があるのですが、実は哲人君の才能とカツコ良さを妬む不逞の輩が、哲人君のお命を狙っているとの情報をわたくしは掴んだのですわ。市民の生命の安全を護る事がわたくしたちに課せられた使命なのですわ。お電話ではお話しできない内容も御座いますので、一度お会いしてご相談しようと考えておりますのよ。次の日曜日午前11時にホテルニューニッポンの一階にあるカフェバーでお待ちしてしますので、いらして頂きたいんですけど。」

『すみません、日曜日はデートの約束がありますので、また電話してもらえますか。』

「なにつ、中学生の分際でデートとな……これは貴男の命に関わる大問題ですから、必ず日曜日午前11時にホテルニューニッポンへ来てくださいな。」

『ダメなものはダメですから……じゃ、切りますので。』

「ガチャツ……とな……フンツツ、どうせこの程度の厨房は先っぽが臭いって言われてフラれるに決まってますわ……でもこの電話セールスマニュアル本に問題があるのかも知れないですわね。新政権の予算不足で安いマニュアルしか入手出来なかった……別の高価なマニュアルに換えれば入れ食いかも知れませんわね。」

『お前の正体がよく解ったよ。』

「あら、あなたは可愛い可愛い、例のお坊ちゃまでしたわね。お名前は何ておっしゃるのかしら。」

『頭が高い、控えおろう。余は独尊寺唯我と申す者、余の辞書に不可能の文字はない。』

「オホホホホホホ、面白いお坊ちゃまですこと。特別にわたくし専用のビデオチャットのURLを教えてくださいようか。どんな醜い顔をしてらっしゃるのか是非とも拝見したいんです。ホホホホホ……」

『蛇蝎院もも子……』

見下げ果てた奴よの。』

「ムムツ、そちは因業寺マス男・・・・・・・・誰の許しを得て回線に割り込んで来た。」

『先月の総選挙で貴公らを推した拙僧が間違っていたと、後悔の念に涙の尽きぬ日々を送っておるわい。』

「オホホホホホホホ、因業寺殿お一人が幾ら頑張ったとて何も変わりはしませぬ。所詮、虫けらは虫けらに過ぎませんのよ。ホホホホ・・・・・・・・。」

『こらっ、愚妹蛇蝎院、権力を取ったと思っただけでいい気になって調子こいてると地獄へ堕ちる破目になるぞ。』

「あら、お姐様はコンビニのゴミを漁って、0・157に中って氏んだと聞きましたわよ。ホホホホホホ・・・・・・・・。」

『邪教院よ、お主等が世襲反対とか二次根絶とか毎月ネット総選挙をやるとか、適当な法案を通すから失脚したんじゃろが。』

「まさに身から出た錆、平家を滅ぼすは平家、汝に出ずるものは汝に返るですわね、お姐様。オホホホホホ・・・・・・・・。」

『蛇蝎院殿、拙僧を敵に回すとはお主も余り利口とは言えんな。』

「因業寺殿、そちは一生うだつの上からぬまま朽ち果てて行くのが定めなのじゃ。それから通信回線ジャック・サイバーハイジャックは最高刑で氏刑になりますのでお気を付け遊ばせ。ホホホホ・・・・・・・・。」

「。。。」

『ちよつと待つてね、ディスカウントシヨップで買ってきた七輪で紀州備長炭熾してるから。ではいずれまた。』

「愚民の贅沢品である秋刀魚でも焼くつもりであるのか、因業寺殿の洞落振りには目を覆うばかりじゃて。ホホホホホ……。」

『愚妹蛇蝎院よ、貴公の肉欲と獣欲に満ち満ちた半生は、このワシが一番よく知っておるぞ。週刊誌ネタにされたくなくば今すぐ指定口座に10億円振り込むんじゃ。』

「オホホホホホホ、出版物の全ては検閲を通過しなければ愚民の目に触れる事はありませんのよ。あと、テレビ・ラジオの全てにデイレイ素子を通さなければ放送できない様に法律で義務付けましたの。実はお姐様たち下々がご覧になって、生放送と思っている番組は全て30分のタイムラグがありますの。時間も現政権指定時計に合わせてありますから、何を言っても無駄ですよ。ホホホホホホ……。」

『こらつ、それはワシらが提供したアイデアじゃるが、パクってんじゃねえよ。ところでよ、インターネットはワシらも研究したんじやが、海外の鯖を通すとな色々と問題が山積して難しいのを知っておるんじや。』

「オホホホホホ、知恵の回らない猿は何時まで経っても猿のままですわね。わたくしたち現政権が独自に開発した高性能検閲フィルターをご存知ないとは……ホホホホホ……。」

『こらつ、愚妹蛇蝎院、議会制民主主義を否定するつもりであるのか。鉄拳制裁を加えるためにこのワシが煽動して武装暴動起こした

るか。』

「オホホホホ、愚民どもが勝手に選んだ政権である事をお忘れじやありませんこと。それに小規模な武装蜂起など目を瞑っていても鎮圧できますわ。そして、お姐様を含めて逆賊全員を市中引き廻しの上、磔獄門にして差し上げますわよ。ホホホホホ……。」

『ちよつと待つてね、因業寺の家に行つてサンマ食つて来るから。ではまた。』

「わらわの政権は不沈空母、鉄壁の要塞だと理解出来まして、愚民ども。オホホホホホ……。」

『悪魔め、余の目の黒い内はお前の思い通りにはさせないぞ。』

「あら、臭い臭いお坊ちやま、先つばのお掃除は済みまして、ホホホホホ……。わたくしは臭いオノコくらい嫌いなものはありませんのよ。この間なんか厨房オノコを優しくムキムキして上げたら、臭くて臭くてお鼻が曲がりそうになってしまいましたわ。あなたもきつと同じですわね、同じ動物臭がしますもの、ホホホホホ……。」

『余は知つておるぞ。お前がササの葉から抽出した体臭除去ドリソク剤を、ネット通販で買つて毎日10本も飲んでる事を。あと、マスクしてサングラス掛けて専門病院に通つてる事も。』

「嘔吐くんじやねえエエエエエエエエエエこんクソガキがアアアアアアアアアア祥子を出せ翔子を出せ昌子を出してみるオオオオオオオオオオてめえこの俺にひん剥かれてえのかよオオオオオオオオオオ」

『醜態を晒すな、愚妹蛇蝎院。』

「あら、お姐様と因業寺は釜茹でと火炙りの刑が確定しておりますのよ。それよりも打ち首、晒し首がお望みなのかしら。オホホホホホホホホホ……。」

『蛇蝎院よ、貴殿の奥義の全て、拙僧は完全に見切っておるわい。』

「七輪の火が消え去る時、其の方の命も絶えるものと心得よ、因業寺。」

『ちよつと待つてね、紀州備長炭足して炭火焼き鳥作らなくちゃ。ではまた。』

「オホホホホホ、わらわが政権に瑕疵など唯の一つもないのじゃ。ホホホホホホ……。」

『余は臭つてならんぞ、蛇蝎院ジヨセフィーヌ。』

「あら、独尊寺唯我お坊ちゃまでしたわね。わたくしはハベルブリブリ家の末裔ですので関係御座いませんですのよ。もう少しオツムをお使い遊ばせ。オホホホホホホ……。」

『ウヌは節穴だらけなんじゃわ、愚妹蛇蝎院よ。』

「オホホホホ、何処のどなたがお姐様の仰る世迷い言など信じると思いますの。もう全てが手遅れなんですのよ、ホホホホホホ……。」

『ちよつと待つてね、因業寺マスターの焼き鳥フルコース食つて来るから。ではまたいずれ。』

「フンツツ、そなたは既に物乞いによつてしか生きる事が適わぬ身。オホホホホホ……。」

『まあな、ものは相談だ。どうか蛇蝎院殿、ここらで休戦協定とかな、まあ後は相互不可侵条約とか結んでも良いと拙僧は考えておるのじゃがのう。』

「オホホホホホ、甘過ぎますわね、わらわの悲願は其の方らを磔獄門にする事なのじゃ。そのために今まで恥を忍んで生きて参つたのじゃ。ホホホホホホ……。」

『愚妹蛇蝎院……今、このワシはお主の真の魔性に触れて気が抜けてしもつた。もうどうにでもせい、覚悟はとうに出来ておる。』

「ホホホホ……お姫様のお命を奪う事のみがわたくしの生き甲斐でした……。」

『蛇蝎院よ、お主は世の中の総てを見ておらん。』

「ホホ……貴方も世界を知らないクズ同然……。」

『蛇蝎院よ、考え直さんか。拙僧も邪教院も命乞いなどしておらん、貴殿の行く末を案じておるだけなのじゃ。』

「因業寺殿……その手には乗りませぬ、もも子は今まで悪い男や女に騙され散々な目に遭つて生きて参りました……。」

「……………」

『もも子よ、因業寺めが腕を奮って、焼き鳥セツトとチューハイとホッピーを用意してくれた。これが最期じゃ、一緒に飲まんか。』

「……………お姉様がわたくしの事を……………もも子と……………始めて呼んで……………」

『まあな、いいから一杯酌み交わそうや、蛇蝎院……………いや……………もも子殿。』

「……………はい、マス男さん……………お姉様……………もも子は……………もも子は……………もも子は……………」

『お前やつぱ馬鹿だろ、アバズレ。』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9968h/>

蛇蝎院もも子のファッション110番

2010年10月10日04時39分発行